

取組事例の紹介 ①



長野県教育委員会事務局教学指導課心の支援室

「いじめに係る学校訪問」では、多くの学校で児童生徒や保護者に「いじめは絶対に許さない」という学校の姿勢を、「学校便り」、「人権教育月間における校長講話や係講話」、「生徒会によるメッセージ」などを通して伝えていることがわかりました。

本通信は、学校訪問で得られた資料をもとに、県下の各学校で行われているいじめ根絶のための取組を紹介するものです。「いじめ対応充実の手引き」とともにお読みいただき、児童生徒や保護者、地域とも共有しながら、学校や学級に「いじめを許さない」風土を築く際の参考としてください。

～ A中学校の取組 ～



「教師としてのあり方」を見直す

A中学校の「いじめ撲滅に向けて」には、一般的なガイドラインとともに「いじめ問題に対する教師としてのあり方」を設け、教師として・組織の一員としての自らを謙虚に振り返ることで課題を浮き彫りにし、指導に生かしていこうとする姿勢が記されています。

A中学校 「いじめ撲滅に向けて」

1 ガイドライン（省略）

2 いじめ問題に対する教師としてのあり方 （一部抜粋）

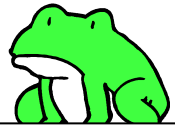
- ▲ 悪ふざけやいじめの事象を小さな出来事ととらえてしまったり、これくらいのことは自分一人ではどうにかできると判断してしまったりして、必要な報告をしなかったために、学年（学校）指導体制になっていなかったのではないかな。
- ▲ 「いじめは絶対に許されない」「自分は絶対にいじめを許さない」という姿勢を十分に生徒に見せてこなかったのではないかな。
- ▲ 学級セクト主義で、干渉しないとか、干渉されたくないという気持ちはなかったかな。
- ▲ 昼休みや放課後等、生徒が生姿を見せる場に居るように努めていなかったのではないかな。
- ▲ 日頃から、学校での生徒の様子を十分に家庭に連絡していなかったのではないかな。

これらの課題に対して、項目ごとにこれからの指導の方針を明確にするとともに、結びの言葉として、次の一言が力強く記されています。

我々教師が変わらなければ、いじめはなくなる！

校長講話で『いじめ撲滅宣言』

A中学校では、5月の人権教育月間に合わせ、人権に関わる校長講話を実施しました。その中で紹介された「わたしのいもうと」（松谷みよこ作）の「あとがき」の中にイソップ童話「こどもとカエル」が引用されています。



こどもとカエル（一部抜粋）

ある日のこと、五、六人のこどもたちが池のそばで遊んでいました。その中の二、三人が、おもしろい半分に、水の中へ、石をポンポン投げ始めました。

ところが、池の中には、たくさんのカエルが住んでいたのです。こどもたちの投げた石にあたって、ひどいケガをしたカエルが大勢いました。

とうとう、がまんができなくなつて、

「みなさん、石を投げるのだけはやめて下さい。」

と言いました。すると、こどもたちは

「ぼくたちは何も悪いことをしていない。ただ石を投げて遊んでいるだけだよ。」

と答えました。

しかし、年寄りのカエルは

「それはそうでしょうが、あなたたちには遊びでも、私たちには命の問題なのです。」

と、言いますと、こどもたちは、もう言い返す言葉もなく、みんなそこそと、向こうの方へ行ってしまうました。

校長先生は講話のまとめとして、自ら「いじめ撲滅」を宣言し、後日学校便りとして家庭に配布されました。

『いじめ撲滅宣言』

本校では、いかなる理由があろうと、「いじめ」は絶対に許しません。

「いじめ」の問題は、私たちの学校生活に強く関係した「人権」の問題です。

「いじめ」は『犯罪』であり、絶対に許されない行為です。「いじめ」は人の命を奪います。「いじめ」は人の心に生涯消えない傷を残します。見て見ぬふりをしている人も同罪です。どんなに言い訳を聞かされようとも、絶対に許されない行為です。

もし、今、あなたが軽い気持ちで誰かをからかっているとしたら、ふざけあっているとしたら、取り返しがつかないことになる前に、今すぐにやめなさい。謝りなさい。そして、もしも、あなたの周りに、「いじめ」ではないか、と疑われる行為があったら、すぐに声をあげてください。先生に訴えてください。それは「チくる」などよばれる低次元な行為ではなく、仲間を助けるための、勇気ある、崇高な、正しい行為です。学校や、学年、学級を、さらには社会を、正しい方向に導く立派な行動です。

「いじめ問題」に第三者はいません。あなたの勇気は必ずまわりに伝染します。

もし、あなたが「いじめ」にあうことがあったら、一人で苦しむのではなく、誰でもいいからそのことを相談してください。親でもいいし、担任の先生でも、学年の先生でも、生徒指導の先生、保健室の先生、スクールカウンセラーの先生、学校中のどの先生でもかまいません。もちろん、校長室に言って来てくれてもかまいません。あなたが最も話しやすい人に助けを求めてください。訴えてください。必ず対応してくれます。

先生たちは、いじめられた人を、理不尽ないじめから責任をもって必ずしっかりと守ることを約束します。